

令和元年度 袋井市子ども読書活動推進計画読書調査結果について

1 要旨

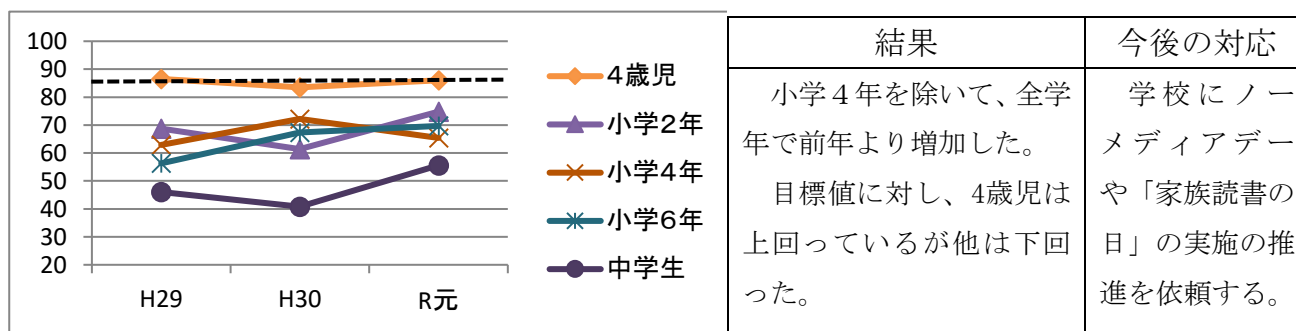
子どもの読書の状況及び小中学校における読書啓発活動等の現状を把握し、子ども読書活動推進に向けた取り組みに活用することを目的とし、袋井市子ども読書活動推進計画（第3次）のアンケート調査を実施した。

袋井市内の幼稚園こども園等（以下各「園所」という。）の園児、小中学校のうち指定の学年を1クラス抽出し、アンケート調査（設問6項目）を行った。

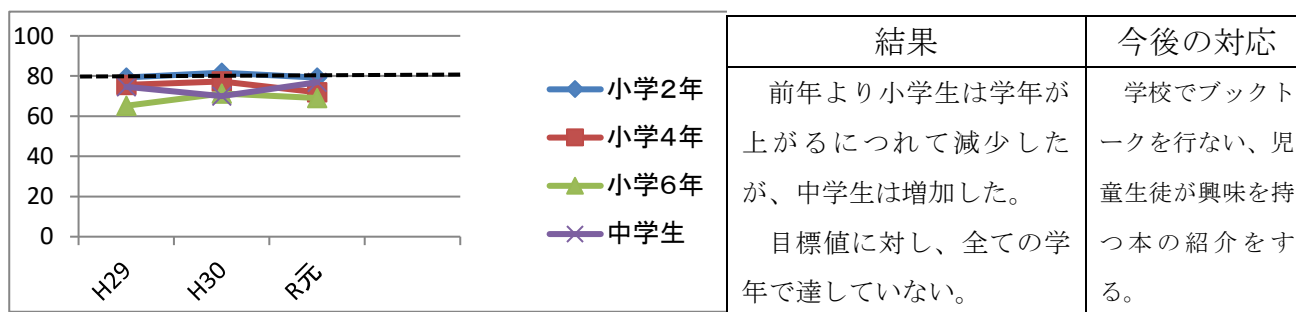
調査の結果、「週に一度は家庭で本に親しむ子どもの割合」については昨年より増加しているが、「1か月の子どもの読書冊数」等減少した項目もあり、引き続き、家庭、各園所、小中学校、関係各課と連携して、子どもたちの本への関心が持続するような取組を行なっていく。

2 アンケート項目

(1) 週に一度は家庭で本に親しむ子どもの割合 目標値 85%

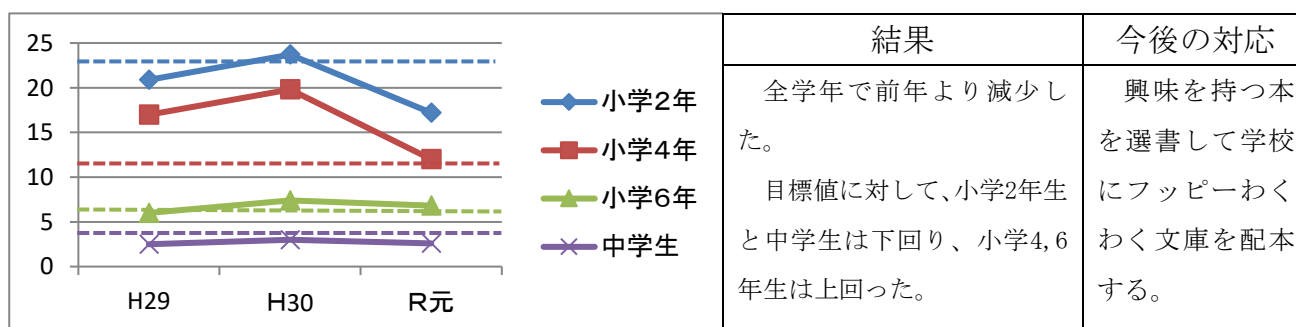


(2) 本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合 目標値 80%

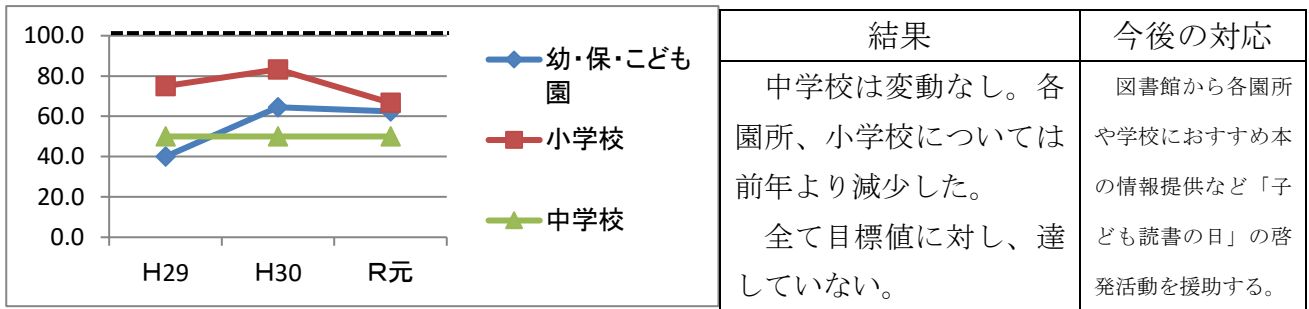


(3) 1か月の子どもの読書冊数

目標値 小学2年生23冊、小学4年生11冊、小学6年生6冊、中学2年生4冊

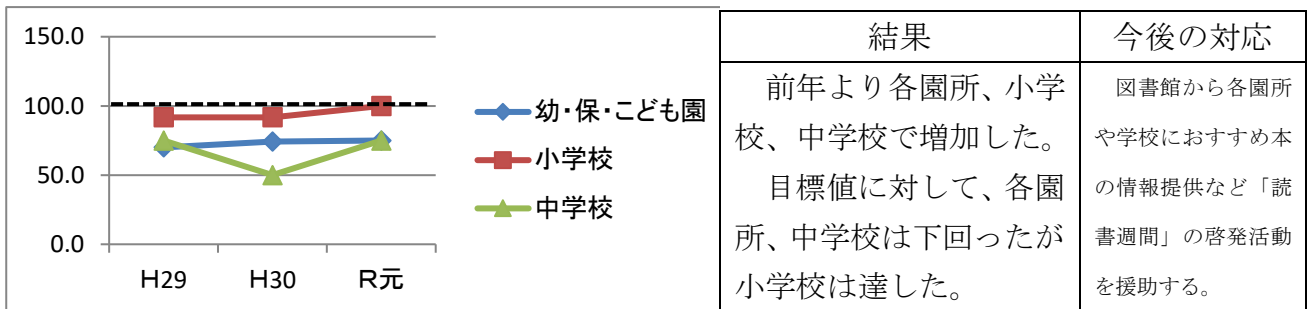


(4) 「子ども読書の日」にかかる読書啓発活動の実施 目標値 100%



結果	今後の対応
中学校は変動なし。各園所、小学校については前年より減少した。全て目標値に対し、達していない。	図書館から各園所や学校におすすめ本の情報提供など「子ども読書の日」の啓発活動を援助する。

(5) 「読書週間」にかかる読書啓発活動の実施 目標値 100%



結果	今後の対応
前年より各園所、小学校、中学校で増加した。目標値に対して、各園所、中学校は下回ったが小学校は達した。	図書館から各園所や学校におすすめ本の情報提供など「読書週間」の啓発活動を援助する。

(6) 1か月に図書館を利用した児童生徒の割合
令和元年度からの新規項目

区分	R元
小学2年	52.5%
小学4年	25.5%
小学6年	18.9%
中学生	7.7%

結果	今後の対応
小学低学年から高学年になるほど利用の割合が低下し、中学生はさらに低い。	本への関心が続くよう「ふくぶくつうちょう」等を活用し、利用を啓発するとともに、学校と連携し、高学年からの利用促進に努める。

3 今後の主な取組

- ・「ふくぶくつうちょう」「ほんナビきっず」を周知するため、ブックスタートやおはなし会等で紹介するとともに、新一年生や来館者にチラシを配布しPRする。
- ・学校と連携して「ほんナビきっず」等を利用し、学校への配本時に児童生徒が興味を持つような本の紹介や授業でブックトークを行う。

令和元年度 袋井市子ども読書調査結果について

1 調査目的

本市の子どもの読書の状況及び小中学校における読書啓発活動等の現状を把握し、子ども読書活動推進に向けた取り組みに活用することを目的としている。

2 調査期間

令和元年10月1日～10月31日

3 調査方法

次の対象者にアンケート調査を実施した。

(1) 未就学児及び関係機関（市内幼稚園、こども園、保育所、保育園（以下、各園所））

ア 市内各園所数：32

イ 対象：各園所の4歳児（年中）クラスのうち1クラス

ウ 調査人数：617人

（内訳）市立幼稚園・こども園計15園321人、市立保育所計1所19人

私立幼稚園・こども園計2園47人、私立保育園計14園230人

(2) 市内小学校及び児童

ア 校数：12

イ 対象：各校2・4・6年生の各学年のうち1クラス

ウ 調査人数：1,036人、

（内訳）2年生358人、4年生342人、6年生336人

(3) 市内中学校及び生徒

ア 校数：4

イ 対象：各校2年生のうち1クラス

ウ 調査人数：131人

4 調査項目

(1) 「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」

対象：未就学児、小学生、中学生

(2) 「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」

対象：小学生、中学生

(3) 「1か月の子どもの読書冊数」

対象：小学生、中学生

(4) 「子ども読書の日(4/23)」「読書週間(10/27～11/9)」に係る読書啓発活動の実施」

対象：各園所、小学校、中学校

(5) 「1か月に図書館を利用した児童生徒の割合」

5 調査結果

(1) 「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」

区 分	目標値	令和元年度	平成30年度	前年比
未就学児（4歳児）	85.0%	86.0%	83.5%	2.5%増
小学校 2年生		74.8%	61.4%	13.4%増
4年生		65.4%	72.2%	6.8%減
6年生		69.7%	67.3%	2.4%増
中学校 2年生		55.6%	40.8%	14.8%増
全体		74.6%	71.1%	3.5%増

(2) 「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」

区 分	目標値	令和元年度	平成30年度	前年比
小学校 2年生	80.0%	79.2%	81.7%	2.5%減
4年生		71.9%	77.3%	5.4%減
6年生		69.0%	71.3%	2.3%減
中学校 2年生		76.9%	70.0%	6.9%増
全体		73.8%	75.9%	2.1%減

(3) 「1か月の子どもの読書冊数」

区 分	目標値	令和元年度	平成30年度	前年比
小学校 2年生	23冊	17.2冊	23.7冊	6.5冊減
4年生	11冊	12.0冊	19.8冊	7.8冊減
6年生	6冊	6.8冊	7.4冊	0.6冊減
中学校 2年生	4冊	2.6冊	3.0冊	0.4冊減
全体		11.0冊	15.3冊	4.3冊減

(4) 「子ども読書の日(4/23)」「読書週間(10/27～11/9)」にかかる読書啓発活動の実施

区 分	目標値	こども読書の日			読書週間		
		令和元年度	平成30年度	前年比	令和元年度	平成30年度	前年比
幼稚園、保育所等年中（4歳）児	100.0%	62.5%	64.5%	2.0%減	75.0%	74.2%	0.8%増
小学校	100.0%	66.7%	83.3%	16.6%減	100.0%	91.7%	8.3%増
中学校	100.0%	50.0%	50.0%	増減無	75.0%	50.0%	25.0%増
市立図書館	100.0%	100.0%	100.0%	増減無	100.0%	100.0%	増減無
全体		64.7%	72.0%	7.3%減	82.4%	78.0%	4.4%増

(5) 「1か月に図書館を利用した児童生徒の割合」(本年度からの新規項目)

区 分	令和元年度	
小学校 2年生	52.5%	
4年生	25.5%	
6年生	18.9%	
中学校 2年生	7.7%	
全体	29.7%	

6 現状分析

(1) 未就学児(4歳児)

「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」は、前年比2.5%増え目標値を1.0%上回っている。

(2) 小学生

「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」は、小学2年生が前年比13.4%増と大幅に増加している。4年生は前年比6.8%減少、6年生は2.4%増加しているが、両学年とも目標値を下回っている。

次に、「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」については、前年と比べ全学年で減少し目標値を下回っている。

「1か月の子どもの読書冊数」については、全学年で前年から減少しているが、目標値については4年生が1冊、6年生が0.8冊上回っている。

新規項目「1か月に図書館を利用した児童生徒の割合」は、低学年については52.5%であり、中学年、高学年へと学年が上がるにつれて割合が下がっている。

(3) 中学生

「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」については、前年比14.8%増、「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」についても6.9%増加した。

「1か月の子どもの読書冊数」は、前年より0.4冊減少している。

新規項目「1か月に図書館を利用した児童生徒の割合」は、7.7%であった。

7 課題

調査結果から、「本を読むことが好きだと答える児童生徒の割合」が小学生については学年が上がるにつれて減少している。このことから、発達段階に応じて読書習慣の形成を効果的に図る必要がある。「週に一度は、家庭で本に親しむ子どもの割合」については全体的に前年より増加したが小学4年生において減少し、「1か月の子どもの読書冊数」について全体的に前年より減少しており、学校などに更なる働きかけが不可欠である。

新規項目「1か月に図書館を利用した児童生徒の割合」については小学低学年から高学年に向かって利用の割合が減少しており、中学生になると減少が顕著に認められる。

このため、読書への関心が持続するよう新たな取り組みを学校、各園所、図書館等で連携し、推進していく必要がある。

8 今後の取組

(1) 図書館からの働きかけ

ア 読書のきっかけづくりとなるよう引き続き各種講座やイベントを開催する。また、他団体のイベント等へ参加し、本の魅力を伝える。

イ 各小学校に「フッピーのわくわく文庫」の配本や、各教科及び総合的な学習の時間などの教育活動を支援するための学習支援用資料セットの貸出しを継続する。

ウ 静岡理工科大学と連携し、中高生向けの図書紹介コーナー及び書棚を設置し、若年者にPRする。

エ 自分が読んだ本のタイトルや貸出日を記録して、読書意欲の向上を図るよう預金通帳型読書の記録「ふくぶくつうちょう」を導入したので、多くの市民に図書館へ来てもらうきっかけとなるよう周知を図る。

オ インターネットを使って楽しく本の検索が出来る子ども向け読書ナビゲーションソフト「ほんナビきっず」を導入したので多くの子どもに周知を図る。

(2) 図書館から家庭への働きかけ

ア 乳児期からの読書を推進するためのブックスタートやセカンドブックを引き続き行うとともに、マタニティスクールへも参加し、出生前からの啓発に努める。

イ コミュニティセンター、学校及び各園所で、読書の大切さを保護者に伝える機会を設ける。

(3) 学校、各園所と図書館の連携

ア 家庭での読書を習慣づけるため、家庭、学校、図書館等が連携し、定期的にノーメディアデーや家族読書の日を設定するなどの対策を行う。

イ 各園所に子どもが興味を引く絵本などを配本するとともに、読み聞かせを行う。

ウ 啓発活動について各小中学校において差があるため、図書館から情報提供等働きかけを行う。

エ 学校の図書担当教諭と連携して「ほんナビきっず」のPRを行うとともに、児童生徒が興味を持つような本の紹介やブックトークを行う。